



# Let's TANDQ便り

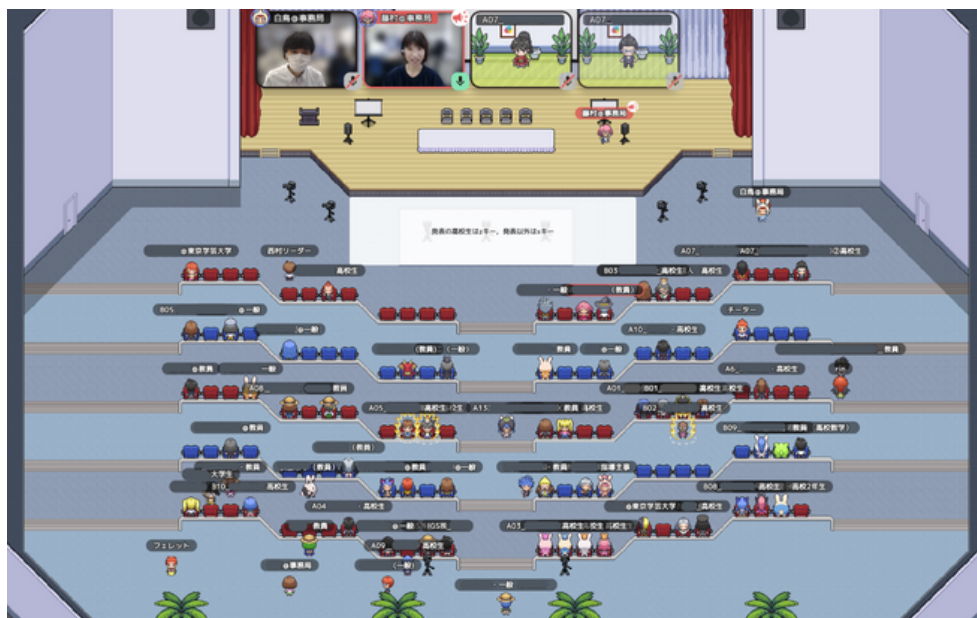
本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

## 今号の内容

探究ミニセミナー & 交流会【第4回】共創イベント①の開催報告

高校生の発表者および参加者の声

アドバイザーから高校生へのエール



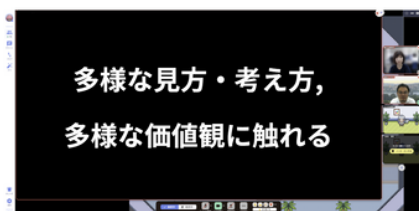
## 探究過程を重視した「共創イベント in Summer」～バーチャルポスターセッション～の開催

7月21日（金）にMetaLifeというサービスを利用したバーチャル空間で、ポスター発表会を開催しました。北は北海道、南は宮崎、さらにはシアトルからも高校生の参加・発表があり、学校や地域・国境、立場や年齢を越えて、探究過程を交流する場を創り出すことができました。

本発表会は、**成果の発表会よりも、探究過程での対話の方が、教育効果が高い**という認識のもとで企画しました。本プロジェクトの西村リーダーが「**ポスター発表では、発表者の発想を膨らませることが目的**なので、活動報告を聞いて、積極的にコメントしていただきたい。質疑応答を通して、多様な見方・考え方、多様な価値観に触れてほしい。これからの探究活動を進めるエネルギーにしてほしい。」とこのイベントの趣旨を説明しました。

続いて、発表者の聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校3年の中村光咲さんが「今後、探究活動をどのように進めていけばよいか悩んでいるので、今回、参加しました。緊張していますが、いろいろな方にアドバイスいただきたいです。**卒業論文につなげられるようみなさんのご意見を聞かせてください。**」と開会宣言。それを受けて、アドバイザーの山本先生（開智国際大学）より、「本イベントを通して、探究活動の内容だけでなく困っていることなどの悩みについても参加者の方々と、特に高校生どうして意見交換してみてください。**対話を通して様々なアイデアに触れることで、試行錯誤するプロセス自体を前向きに楽しめるようになります。**みなさんの発表を楽しみにしています。」とメッセージをいただき、開会式としました。

多様な見方・考え方、  
多様な価値観に触れる





## 探究過程を対話できるコミュニティの創出へ

発表タイムは4回。組合せを変え、1人（1チーム）2回ずつ発表できるようにしました。当初はバーチャル空間での発表に対する不安の声もありましたが、アバターで移動することやポスターブース内ではカメラを介した会話もでき、楽しみながら交流していただけたようです。参加者のみなさまからは、**発表してくれた高校生たちの人となりや個性を感じ取れることができた**、**もっと時間がほしい**と思えるほど**双方向でコミュニケーションをとることができた**、**予想していた以上に高校生どうしでも質疑をし合っていた**、といった声がとどきました。

また、今回のイベントを通して、質問する側の大人のほうが、勉強になったのではないかと、**参加者（発表者以外）の姿勢や、発表者に対する質問力・コメント力・アドバイス力が、かなり重要だ**ということ、**参加者の質問やコメントの“質”が高ければ高いほど、発表者が得られるものも大きくなる**といった声も頂戴しております。コメントの“質”の担保が課題となりますが、その鍵は探究過程を対話できるコミュニティの創出にあると改めて感じています。今後開催する「探究ミニセミナー&交流会」にも、高校生を含む多くの方々にご参加いただき、コミュニティを拡げていきたいと考えています。

### 発表者から頂いた感想

・大人の方からの目線や同じ高校生の目線でのアドバイスのおかげで、**自分の発表を見直すことができました**。また、みなさんからの質問を受けることで、**どうしてこのテーマで探究をしているのか、自分の興味の原点に返ることができてよかったです**。

・探究の成果を発表する場はよくありますが、**過程を発表し、意見やアドバイスを聞くことができる機会**というのは初めての経験で、今後活動を進める上で大変参考になりました。

・**結果が出ていなくても探究の過程での困ったことや悩んでいることを共有できて、有益な発表会だ**と思いました。ただ、理数系の発表へアドバイスできる人が少なく、少し物足りないように思えました。

・沢山の方から意見やフィードバックをいただき、これからの探究活動のための新しい視点やアイデアを得ることができ、貴重な時間でした。バーチャルでも実際に、対面で話しているように、**良い対話を行うことができました**。

・今まで自分が見えていなかった視点の意見をもらえてとてもいい経験になりました。今回の質疑応答を通して、自分自身が課題のテーマについてまだまだ知らないことばかりだと気付いたので、**自分たちの取り組みに価値付けができるよう取り組んでいきたい**。

## アドバイザーより、高校生へのエールをいただきました！

<山本勝治先生・開智国際大学>

テーマもアプローチの仕方も様々で、みなさんの発表を興味深くききました。調査したデータを丁寧に分析して研究していたり、外部の方々と連携しながら継続的に社会貢献活動に取り組んでいたりと、意欲的な探究活動に感心しました。

探究の方向性がわからなくなってしまった人は、是非初心に戻り、もともと自分がなぜこのテーマに興味をもち、どんなことに問題点があると感じていたのか、再確認してみてください。そうすれば、探究活動の目標が明確になり、何をどのように探っていけばよいかが見えてくるかと思えます。

探究がうまく進んでいる人は、少し立ち止まり、他の視点や他のアプローチの仕方がないか探ってみてください。あえて試行錯誤して悩んでみることを通して、視野が広がり探究が深まっていきます。手堅く小さく探究の成果を完結させて終わってしまうのではなく、課題意識を持ち続けて、探究を継続させていってください。

現在取り組んでいることがまとまった後も、新たな課題が生まれ、次の探究につながっていきます。高校卒業後も生涯にわたって探究し続けられるといいですね。

<小松万姫先生・国際基督教大学>

このイベントを通して改めて人が集まることの素晴らしさを実感しました。新しいアイデアを生み出す場に立ち会うのは学びの醍醐味です。聞き手にとっても質問力を磨くまたとない機会でした。実は私は質問するのが苦手ですが、毎回、自分をチャレンジして質問することを前提に発表を聞きます。すると聞き方が違ってきます。質問者が気づいていない部分に研究前進の種があります。質問を通して少しでも研究の前進に貢献できることを目指して、毎回発表を聞きながら質問の内容と言葉を練ります。質問することで発表者と向き合える楽しさを学んでいます。

今回の共創イベントは学びの空間づくりの新たな可能性を探るもので、立ち会えて光栄です。また皆さんと次の学びの場で一緒にできるのを楽しみにしています。

